

はじめに

都市部を中心に日本でも多文化化が進んでいます。政府観光局（2018年度統計）によれば、訪日する外国人の数は10年前のおよそ4.5倍（3千万人を超えました）、企業も優秀な人材を求めて外国人の採用枠を設けるところが増えました。異なる民族、人種、文化背景を持つ人々との出会いや交流は、すでに日本人の日常になったといえるでしょう。しかし、だからといって学問としての異文化コミュニケーションの認知度が上がったとはいえないようです。外国籍の人びとや異文化との接触という個人的実態はあっても、異文化コミュニケーションを高校や大学で学んだ人は少なく、その内容を知る人はまだまだ少数派です。

異文化コミュニケーションの英訳は‘intercultural communication’です。‘inter（インター）’とは「間（=あいだ）」という意味です。学生の皆さんにも馴染みの「インターハイ」は、インターハイスクール・チャンピオンシップ、「インカレ」はインターカレッジ・チャンピオンシップを略したもので、それぞれ高校間、大学間のスポーツ大会をさしています。‘intercultural communication’も正しくは「文化間」のコミュニケーションですから、異なる文化背景を持つ人たちのかかわり方（=コミュニケーション）について学ぶ学問といえるでしょう。

一方、実態としての異文化コミュニケーションは、楽しいことばかりではありません。多文化社会として長い歴史を持つ多くの国々では、依然、異文化コミュニケーションをめぐる様々な問題に頭を悩ませているのが現状です。異文化・異民族に対する間違った情報、文化差をわい小化して考えることによる積極的な無視、コミュニケーションスタイルの違いによる誤解などはいたるところで見られますし、国の経済が傾いて庶民が仕事を失うような時は、たいてい異文化・異民族集団が妬みや攻撃の対象となります。

筆者自身もアメリカ暮らしのなかで、何度も差別的な対応を受けたことがあります。日米貿易摩擦の激しかった頃は、学生街にあったマクドナルドで「クソ野郎、日本人！」と罵声を浴びせられたり、ホテルでの宿泊を拒否されたりしました。また、逆にカフェでコーヒーを飲んでいたら「かわいそうなアジア人、あなた、これでハンバーグでも食べなさい」と1ドル札を渡されて困惑したこともあります。建国以来、世界中から移民を受け入れ、むしろ多様性の持つ巨大なエネルギーによってこそ発展を遂げてきたアメリカですら、否、それゆえにこそ、こうしたことがおこるのでしょう。

日本の多文化化はすでに始まっています。21世紀は日常における一人ひとりの異文化コミュニケーション能力が問われる時代といえましょう。本書を通じた異文化コミュニケーションの学習が、異なる文化・民族への関心を高め、相互理解に向けた努力をうながし、また、支えてくれるものとなるよう願ってやみません。

2020年5月

著 者

異文化コミュニケーションの基礎知識
— 「私」を探す、世界と「関わる」 —

目 次

はじめに	i
------------	---

第1章 多文化社会と異文化コミュニケーション学 1

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 アクティビティ・セッション | 1 |
| 2 リーディング・セッション | 2 |
| (1) 多文化社会とはどのような現象か | 3 |
| (2) 求められる文化的期待 | 5 |
| (3) 異文化コミュニケーション学はなぜ生まれたか | 8 |
| (4) 異文化コミュニケーション研究の内容と方向性 | 9 |

第2章 文化について考える14

- | | |
|-----------------------------------|----|
| 1 アクティビティ・セッション | 14 |
| 2 リーディング・セッション | 16 |
| (1) タイラーとフェラーロによる文化の定義 | 16 |
| (2) 文化は多元的 | 19 |
| (3) 文化理解の方法 | 21 |
| (4) 文化の普遍性 | 23 |
| (5) 文化とことば：言語決定論（サピア=ウォーフの仮説）を考える | 24 |

第3章 たかがコミュニケーション、されどコミュニケーション29

- | | |
|--------------------------|----|
| 1 アクティビティ・セッション | 29 |
| 2 リーディング・セッション | 31 |
| (1) コミュニケーションは複雑系？ | 31 |
| (2) 3種の人間関係とコミュニケーション | 33 |
| (3) コミュニケーションとパワー | 34 |
| (4) コミュニケーションはどう説明されてきたか | 36 |
| (5) コミュニケーションと自己 | 39 |

第4章 非言語コミュニケーションと文化45

- 1 アクティビティ・セッション 45
- 2 リーディング・セッション 47
 - (1) 非言語コミュニケーションの特徴 48
 - (2) 非言語コミュニケーションと文化 49

第5章 日本人のコミュニケーション66

- 1 アクティビティ・セッション 66
- 2 リーディング・セッション 67
 - (1) うずまき型コミュニケーションスタイル 68
 - (2) うずまき型コミュニケーションを育んだ日本人の生活形態 70
 - (3) 多義的・感覚的な日本語がおりなすコミュニケーション 71
 - (4) うずまき型コミュニケーションの理論的背景：高文脈文化 74
 - (5) 日本人の自我と世界観 77

第6章 カルチャーショックと異文化に対する感受性の発達83

- 1 アクティビティ・セッション 83
- 2 リーディング・セッション 87
 - (1) カルチャーショックのU字型曲線モデル 87
 - (2) カルチャーショックのW字型曲線モデル 89
 - (3) カルチャーショックモデルをめぐるいくつかの問題点 90
 - (4) 異文化感受性発達モデル 91

第7章 ステレオタイプと偏見97

- 1 アクティビティ・セッション 97
- 2 リーディング・セッション 99
 - (1) ステレオタイプ 99
 - (2) 偏見 101
 - (3) メディアの持つ力 106

第8章 コミュニケーションとパワー (1)

— 異文化としてのジェンダー — 110

- 1 アクティビティ・セッション 110
- 2 リーディング・セッション 111
 - (1) ジェンダーとはどのような概念か 112
 - (2) アタシとオレのコミュニケーション 115
 - (3) 違いの背景：ジェンダー・アイデンティティの形成過程と遊び方 118
 - (4) ジェンダーとパワー 120
 - (5) ジェンダー・コミュニケーションの今後 123

第9章 コミュニケーションとパワー (2)

— 日本人は英語とどう向き合うべきか — 128

- 1 アクティビティ・セッション 128
- 2 リーディング・セッション 130
 - (1) 英語のパワー 130
 - (2) 英語への憧れと劣等感 134
 - (3) 英語教育の目標 135
 - (4) EIL の位置づけ：EFL? ESL? それとも?? 137
 - (5) 'My English' (使い手それぞれの英語) 139
 - (6) 学習／教育目標としての「わかりやすさ」とその課題 141

異文化コミュニケーションのためのヒント 143

アクティビティ・セッションの解答および解説 149

心に刻もう！

異文化コミュニケーションのファーストステップ

異文化コミュニケーションのファーストステップは、他者への関心と（自他）文化の理解です。すべてのコミュニケーション行為は文化的であることを認め、異文化だけでなく自文化に対する理解も深めましょう。異文化に対する本当の敬意は、自らの文化アイデンティティを（再）確認し、それを喜んで受容することによって生まれるからです。異文化コミュニケーションは、優越感につながるものがない曇りなき自尊感情とコミュニケーションに対する責任を礎石とした受容と共感の対話です。

